

令和6年度 田原市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和7年2月21日(金) 午後4時00分～午後5時05分

2 場 所 田原市役所 政策会議室(南庁舎4階)

3 内 容

報告事項

(1)いじめ・不登校問題の現況と本市の対応方針について

(2)中学校の休日部活動地域移行について

(3)給食費の改定及び小中学校給食費の支援について

その他

4 出 席 者

市 長

山下 政良

教育委員会 教育長

伊藤 正徳

教育委員会 教育長職務代理

田中 早苗

教育委員会 委員

太田 孝雄

教育委員会 委員

高崎 佐智江

教育委員会 委員

田中 智和

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

企画部長

大羽 浩和

企画部次長

小林 哲三

企画部企画課長

仲谷 和也

企画部企画課企画係長

中神 賢

教育部長

増田 直道

教育部教育総務課長

川口 崇

教育部学校教育課長

峠 尚良

教育部生涯学習課長

山田 達也

教育部スポーツ課長

鈴木 雅也

教育部文化財課長

天野 敏規

教育部図書館長補佐兼中央図書館係長

彦坂 幸子

教育部教育総務課長補佐兼教育総務係長

木村 真一

6 傍聴人

なし

7 協議の経過

(企画部長)

ただ今から令和6年度田原市総合教育会議を開催する。始めに、山下市長からあいさつを申し上げます。

(市長)

教育は、色々な面で変わってきており、問題も変わったり大きくなったりしてきている。

いじめの問題も、中身が変わってきている。

先生の働き方改革、さらに、知事は休み方改革ということも言っている。

改革は良い方向に変えていかないといけない。休日の部活動の問題も良い方向に変えていかないといけない。新しいことは、始めた後でも、また変わってくることもある。

今日は、それらの問題もあがっているので、よろしくお願いします。

(企画部長)

それでは、議事についての進行は、本会議の議長である市長にお願いします。

(市長)

今日は、議事事項は無いので、報告事項に入る。始めに(1)いじめ・不登校問題の現況と本市の対応方針について、事務局から説明する。

(学校教育課長から(1)について説明)

(市長)

ただ今説明のあった、いじめ・不登校問題の現況と本市の対応方針についてご意見、ご質問等をお願いします。

(太田委員)

小学生も中学生も不登校が増えているが、一番驚いたのは、小学生の不登校の人数が、R3からR6で大きく増えている。以前は、小学生の教育支援ルームの利用者はほとんどいなかったが、不登校の人数の増加に伴い、利用者数も増えている。大きく増えた理由の分析をもう少し教えてほしい。

(学校教育課長)

理由を聞き取りしたりカウンセラーから話を聞いたりすると、不安や無気力ということも聞くが、なかなか掴みにくい。中には、家でゲームしたい、家の方が過ごしやすいなどの理由も多い。それがきっかけで、学校に来られなくなることもあるので心配している。

(太田委員)

各学校に教育支援ルームの設置を検討するとのことだが、小学校の大きな問題として考えてほしい。

(教育長)

不登校に対する親の考え方が変わってきている。10年程前までは、親が引っ張って連れてきた。今は、心療内科を受診して、医師から今はエネルギーが足りないから無理すると言われる。親は、医師が言われたからと安心して、学校へそのように伝える。医師や親の考え方がそういう方向になっている。学校は義務教育期間中に何とかしようと頑張るが、親と対立するわけにはいけないので、学校も悩んでいる。

(田中(早)委員)

不登校の親は、通わせるのを諦めているのか。

（学校教育課長）

諦めはせず子へ声かけをするが、子が応じず行き詰まってしまうこともある。結果として何も言えなくなる、何もしていないように見えてしまうこともある。

（市長）

中学生が思春期で反発するというのは考えられるが、小学生はなかなか考えにくい気がする。

（教育長）

学校としては、親へ心配していることは伝える。医師は10年スパンで長い目で見ると、学校側は義務教育の9年間しかない。タブレット端末を使つての学習や教育支援ルームなどの方法もあることも伝えるなど、様々な手立てを打っている。

（高崎委員）

聞いた話によると、今は子どもたちが持つ情報量が多い。親と子の価値観が違ってきているのも影響しているのでは。

（教育長）

すぐには解決できない。粘り強く対応するしかない。教育サポートセンターは上手く機能している。各学校にも支援ルームを設置して、先生が交代で付くこともしている。市としても人の予算を配分するなど、後押ししてほしい。

（市長）

本人・家庭・学校の3者の問題という面もあり、市としてもなかなか手を出しにくい部分でもある。

（教育長）

中学校まで不登校でも、その後社会に出られればまだよい。その後、引きこもりにならないように、それだけは防ごうと、卒業後も相談窓口につなぐなどしている。

（市長）

先生方の努力や苦勞は理解できる。全国どこでも同じような問題を抱えている。

（田中(智)委員）

子どもの中には、不登校だけど友達が家に遊びに来て遊んでいる子もいる。だけど、学校には行けない理由がある。保護者は不安に思っている。同じ境遇の保護者間の情報交換やつながりも大事。保護者が低いハードルで話ができる、気持ちを和らげられるようなことがあってもよいのでは。

（市長）

すぐに解決できる問題ではないので、粘り強くやっていくしかない。

（市長）

次に、(2)中学校の休日部活動地域移行について、事務局から説明する。

(学校教育課長から(2)について説明)

(市長)

ただ今説明のあった、中学校の休日部活動地域移行について、ご意見、ご質問等をお願いする。

(田中(智)委員)

今年度から東部中で剣道の地域クラブ活動の指導員をやっている。現2年生の親に保険加入や練習の見守りなどの協力をしてもらっている。まだ、田原中と赤羽根中では、地域活動はできていない。保険は年度更新なので、4月からの新チームになってからをどうしようかと話をしている。保険加入や指導員の謝礼はどのように考えているのか。

(学校教育課長)

まずは、地域クラブとして認定できるかどうか。そして、9月までに、謝礼や物品、保険など、必要なものを整理して、9月以降支援していきたい。体制を整える期間があるので、4月からすぐに支援ということは難しい。

(田中(智)委員)

保険は一年分払ってしまうが、クラブとして認定されれば、9月以降の分は支援してもらえるのか。

(学校教育課長)

その部分はこれから検討していくが、何らかの形で支援していきたいと考えている。

(田中(智)委員)

指導者の中には指導経験の無い人もいる。ハラスメントなどの問題も心配なので、指導者への研修や指導も考えてもらいたい。子どもたちが安全に活動できる環境整備をお願いしたい。

(学校教育課長)

指導者への研修も計画している。事務局を中心に、安全面やハラスメント、緊急時の対応など、継続的にやっていきたい。

(スポーツ課長)

技術だけでなく、社会的マナーなども教えられるように、講習会や研修会などをやっていきたい。

(高崎委員)

保護者は自分の子が一番かわいい。部活動の顧問と地域クラブの監督が上手く連携して、選手選抜などトラブルにならないように、しっかり意見交換できるようにしてほしい。

(学校教育課長)

地域活動団体コーディネーターから各学校へ働きかけて、学校の様子なども含めて積極的に情報交換するようにお願いしている。子どもたちも目的が様々で、勝ちたいという子もいれば、体力づくりが目的の子もいる。丁寧に情報交換してもらうように、学校側にも理解をしていただいている。

(市長)

文科省としての最終的な考え方は。全て地域移行するのか、休日だけなのか、方向性は。

（学校教育課長）

現時点では明確には示されていない。数年度に学習指導要領が変わるときに、どのように明記されるのかによる。議論はされている。学校から切り離していく方向ではないかと思う。

（市長）

都市部では地域の受け皿も色々あると思うが、それ以外の地域では完全に地域でということとはなかなか難しい。

（教育長）

文科省は、最初は地域移行と言っていたが、だんだんトーンダウンして今は地域連携と言っている。最終的には、教員の働き方改革を強く言っているので、手放したい思いはあるのではないかな。本市の取組はかなり先を行っている。保護者の中には誤解している人もいるが、平日は部活動がある、休日は部活動をそのまま移行するわけではないが、やる受け皿はたくさん作る。この本市の考え方が子どもたちにとって一番良いのではと、今は思っている。休日は、部活動と違う種目、活動をやってもよい。

（田中(智)委員）

現在は入りたい子だけでクラブ活動をやっている。試合は団体戦の対応のため、クラブに入っていない子でも受け入れて出られるようにしている。そのメンバーは、顧問の先生に選考してもらっている。ただ、4月の大会は、全てクラブ任せということになっている。

（教育長）

全てクラブで出られる大会ならよいが、大会によってはクラブでは出られないものもある。中小体連は学校名でないと出られない。

（市長）

中小体連を残しながら、休日の部活動を地域でというのが矛盾している気がする。子どもたちも親も困るのでは。

（田中(早)委員）

子どもの中には、その種目は好きでも顧問と合わない子もいる。クラブがあると、そちらに行けば違うコーチだから行けるということになるのでありがたい。色々な人と関わって、色々な道があるとよい。

（市長）

色々なパターンがあると思うが、市全体としてルールを作らないといけない。田原流で考え作ればよいと思う。

（教育長）

中小体連も分かってはいるので、だんだん引いてきてはいる。子どもたちが困らないようにするのが一番大事。子どもたちが楽しんで活動できるように調整することが、中小体連の動きを見ながら学校がすべきこと。

（田中(智)委員）

剣道の場合は、中小体連の大会をメインに考えている子が多い。全国大会につながっていくので。そのためにクラブ活動も頑張るという考え。4月以降、地域クラブ活動がまだできていない種目を取り残されないように、新3年生が置き去りにならないようにしてほしい。

(教育長)

基本的に、今も休日の部活動は月1回だけ。現実には、土日にも活動しているクラブも多い。4月からすぐに全て移行するというのは難しいので、そのまま活動していただいて、その後、市で支援していくという考え。

(田中(早)委員)

中学校の部活動の種目を増やしたり減らしたりするのは、各校長の権限なのか。

(教育長)

学校の裁量だが、当然、保護者の意見も聞いたうえでとなる。

(学校教育課長)

子どもの数が減っていくと、必要な教員の数も減っていくので、できる種目は限られてくる。また、今は部活動に入らない子もいる。そうなってくると、希望者が少ない種目を減らす対象にもなってくるということはある。

(市長)

今後も、中小体連の問題と文科省の動きを的確に捉えることが大事。

次に、(3)給食費の改定及び小中学校給食費の支援について、事務局から説明する。

(教育総務課長から(3)について説明)

(市長)

ただ今説明のあった、給食費の改定及び小中学校給食費の支援について、ご意見、ご質問等をお願いする。

(田中(早)委員)

市外小中学校等の在籍者とはどのような人か。

(教育総務課長)

特別支援学校や私立の学校など、給食の提供がある学校が対象。

(市長)

文科省は無償化を目指していたが、現実には難しい。市として全額支援も考えたが、世界経済の先行きが不透明な中で財政的にも厳しい。無償化は、東三河では豊根村だけ。高校にも給食提供をという声もあるが、市立ではなく県立ということもあり難しい。

(田中(早)委員)

市内の3校だけでもやってもらえると親としてありがたい。

(市長)

受け入れる学校側の配膳室の整備や、配膳方法の問題など、県立なので現実的には難しい。県は、田原の高校だけ配膳室を整備するというわけにもいかない。また、子どもたち側の意見としては、反対という声が多い。

(高崎委員)

個人的には、給食は中学校までで十分だと思う。保育園の無償化など、田原は子育て面で恵まれている。高校の弁当は、最後の母の仕事だと個人的には思っている。

(市長)

他に何かご意見等はよろしいか。

無いようなので、以上で報告事項を終了する。「その他」で何かあるか。

(田中(智)委員)

高校の制服のおさがりを活用し合うことについて、市で発信できないか。

(企画課長)

民業圧迫にもなり得るので、市としては難しい。

(市長)

本日の報告事項等はすべて終了した。

以上で、令和6年度田原市総合教育会議を閉会する。

(閉会 午後5時05分)